

日本ロッシーニ協会定期演奏会

ROSSINI パリの煌きとエスプリの中で

企画概要

公演名 日本ロッシーニ協会定期演奏会「ROSSINI パリの煌きとエスプリの中で」

期日 2015年3月29日(日) 14時開演(13時30分開場)

会場 JTアートホール、アフィニス(虎ノ門JTホール)

(東京メトロ銀座線、虎ノ門駅3番出口より徒歩4分。溜池山王駅より徒歩5分)

全席指定 入場料 ¥4,500、学生 ¥3,000

主催 日本ロッシーニ協会

後援 イタリア文化会館、公益財団法人日伊協会(予定)

マネージメント: ミリオンコンサート協会

出演: 山口佳子(ソプラノ)、富岡明子(メゾソプラノ)、中井亮一(テノール)、金井紀子(ピアノ)、
水谷彰良(解説)

主な曲目

《ランスへの旅 *Il viaggio a Reims*》(1825年)より

伯爵夫人のアリア〈ああ、私は出発したいのです〉

コリンナと騎士ベルフィオーレの二重唱〈かのお方の神々しいお姿には〉

メリベーア侯爵夫人とリーベンスコフ伯爵の二重唱〈気高き魂を、ああ神よ!〉

《オリー伯爵 *Le Comte Ory*》(1828年)より

三重唱〈この暗い夜の助けで〉

《ギョーム・テル *Guillaume Tell*》(1829年)より

セーヌと、マティルデのエール〈私たちの愛には、もう希望がありません〉

レシタティフと、アルノールのエール〈先祖伝来の住処よ〉

カンタータ《ジョヴァンナ・ダルコ *Giovanna d'arco*》(1832年) ほか

ロッシーニ・オペラ・フェスティヴァルの若者公演《ランスへの旅》で高い評価を得た3人の気鋭のベルカント歌手による「パリの煌めきとエスプリ」!

イタリア・オペラを極めたロッシーニの最後の活動の場となったのがフランスの首都パリ。1825年、新国王シャルル10世の戴冠を祝う《ランスへの旅》でフランス・デビューを果たした彼は、パリ・オペラ座のための歌劇を年1作のペースで発表し、最高傑作《ギョーム・テル》に到達します。けれども思いもよらぬ七月革命の勃発でオペラの筆を折ることに……

この演奏会はパリ時代の傑作《ランスへの旅》《オリー伯爵》《ギョーム・テル》から珠玉の名曲を選び、異色のカンタータ《ジョヴァンナ・ダルコ》と共にロッシーニの創作の頂点をお楽しみいただきます。

ロッシーニ・アカデミーで巨匠ゼッダの薫陶を受け、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルの若者公演《ランスへの旅》で高い評価を得た3人の気鋭のロッシーニ歌手による「パリの煌めきとエスプリ」

山口佳子 Yamaguchi Yoshiko (Soprano)



東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修了。2005年藤原歌劇団公演《ラ・チェネレントラ》クロリンダ役でデビュー後、イタリアに留学。ロッシーニ音楽祭《ランスへの旅》の他、《セビリヤの理髪師》《ラ・ボエーム》など欧州各地でのオペラ公演に参加、2013年にはイタリア・トリエステ歌劇場《カルメン》ミカエラ役で出演。2009年に帰国後は国内でも、オペラ《椿姫》《こうもり》《ドン・ジョヴァンニ》《コジ・ファン・トゥッテ》《愛の妙薬》《マノン》《フィガロの結婚》《アラベラ》等の主要な役を演じ、様々なコンサートや《メサイヤ》《第九》等のソリストとしても各地の公演で活躍中。藤原歌劇団団員。日本ロッシーニ協会会員。CD 日本歌曲集《樋口一葉～恋の和歌～》発売中。公式ブログ <http://yohhin33.at.webry.info/>

富岡 明子 Tomioka Akiko (Mezzosoprano)



東京芸術大学卒業、同大学院修了。在学中に安宅賞受賞。ローム音楽財団奨学生としてイタリア・パルマ音楽院に学び、審査員全員一致の首席にて学位取得。2011年日本音楽コンクール2位をはじめ、ペリッツォーニ国際声楽コンクール2位及び聴衆賞、フラビアーノ・ラボー国際声楽コンクール2位など国内外で受賞を重ねる。《フィガロの結婚》ケルビーノ役を皮切りに、パルマ歌劇場《試金石（抜粋）》やペーザロ・ロッシーニ音楽祭《ランスへの旅》、また小澤征爾音楽塾やサイトウキネンフェスティバルにおいて《セビリヤの理髪師》に出演。2010年東京フィル定期《エレミヤ》や、2012年同定期、巨匠アルベルト・ゼッダと共演した《フォークソングス》では、NHK-FMでの放送と併せて高い評価を得た。二期会会員。

中井 亮一 Nakai Ryoichi (Tenore)



名古屋芸術大学首席卒業、同大学院修了。08年スカラ座音楽院オペラ研修所修了。05年よりミラノに留学。ヴェネツィア国際音楽祭、フェニーチェ歌劇場(ロッシーニ・ガラ)などでオペラやコンサートに出演。07年にはペーザロ Rossini Opera Festival 若者公演《ランスへの旅》にベルフィオーレ役で出演、l'opera 誌ほかで好評を得る。帰国後は《夢遊病の女》(新国立劇場)、《愛の妙薬》(銀座/浜松)、《椿姫》(広島/静岡)、《蝶々夫人》(京都南座)、《ファルスタッフ》(A.Zedda 指揮 ※1/25 予定)など20以上のオペラに出演。ロッシーニ作品は《結婚手形》《タンクレーディ》、《セヴィリアの理髪師》、《マオメット II 世》《スターバト・マーテル》《小荘厳ミサ曲》などに出演。名古屋芸術大学講師。日本ロッシーニ協会会員。藤原歌劇団団員。

金井 紀子 Kanai Noriko (Piano)



武蔵野音楽大学ピアノ科卒業、同大学専攻科修了。声楽のアンサンブルピアニストとしての実績は長期に及び、オペラの分野ではコレペティートルとして二期会、藤原歌劇団、東京室内歌劇場、東京オペラプロデュース、日本オペレッタ協会、新国立劇場小劇場などで活躍。1985、87、92年にはロッシーニのピアノ作品を紹介するリサイタルで話題を集めた。1988～89年文化庁芸術家在外研修員としてミラーノのスカラ座に留学し、イタリアのテレビ番組「リリカ・イン・サロット」のレギュラーピアニストを務め、T.ファツプリチーニ、M.レアーレなどのリサイタル伴奏も務める。日本ロッシーニ協会事務局長。昭和音楽大学名誉教授。

水谷 彰良 Mizutani Akira (解説)



1957年 東京生まれ。音楽・オペラ研究家。日本ロッシーニ協会会長。フェリス女学院大学オープンカレッジ講師。著書：『プリマ・ドンナの歴史』(全2巻、東京書籍)、『ロッシーニと料理』(透土社)、『消えたオペラ譜』『サリエリ』『イタリア・オペラ史』(共に音楽之友社)。共著：『魅惑のオペラ』(小学館。全30巻)、『ジェンダー史叢書・第4巻 視覚表象と音楽』(明石書店)、『ローマ 外国人芸術家たちの都』(「西洋近代の都市と芸術」第1巻、竹林舎)ほか多数。『サリエリ』で第27回マルコ・ポーロ賞を受賞。多数の論文・論考を日本ロッシーニ協会紀要『ロッシニアーナ』と協会ホームページに掲載。
<http://societarossiniana.jp/>

◎日本ロッシーニ協会 Società Rossiniana Giapponese

日本ロッシーニ協会は、ロッシーニを愛する音楽研究家、評論家、声楽家、演奏家、オペラ愛好家によって1995年12月に設立された団体です(名誉会長:フィリップ・ゴセット、会長:水谷彰良、事務局長:金井紀子)。定期演奏会と例会の開催、研究紀要『ロッシニアーナ』の発行を主な事業とし、ロッシーニに関心のある方はどなたでも入会できます。入会資料請求は事務局まで(Fax: 03-3722-0426)。[公式ホームページ] <http://societarossiniana.jp/>